

令和6年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「学校探検」「秋探し」など、他学年との交流を通して、助け合ったり、協力したりするよさに気付くことができた。上学年（2年生）は、下学年（1年生）に教えてあげる楽しさを、下学年は上学年に教えてもらう心地よさを体感できた。
- ・花や野菜を育てる活動を通して、成長の様子や変化に気が付き、成長の喜びを味わい、大切に育てることができた。また、タブレット端末を使って写真を撮ることで、より細かいところまで観察することができた。
- ・「近くの公園に行く」、「町たんけん」などのフィールドワークを取り入れた学習が充実してきた。

(2) 課題

- ・体験的な活動をした際にそれぞれの気づきを深めたり、表現したり、伝え合ったりすること、また説明する際の話し方や、言葉遣いに課題が見られる。国語科を中心として、文字や言葉で表現する力（「聞く・話す」力）を養っていく必要がある。
- ・活動の際、自分が楽しむことが中心となってしまう、相手を楽しませてあげるところまで至っていない。「何のために」「だれのために」この活動を行っているのか、相手意識・目的意識をもたせる必要がある。
- ・育てている花や野菜の写真を撮るだけで、タブレット端末を有効に活用しているとは言い難い。キーボードの手入力や文字入力の仕方を身に付けさせ、花や野菜を観察して、「気付いたこと」や「思ったこと」などもタブレットを使って入力できるようにしたい。

2 授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各活動を通して、個々の気付きを見取るため、カードの工夫を行う。他の児童と気付きの交流ができるようムーブノートやオクリンプラスなどを効果的に活用した活動場面を設定していく。 1年「あきとなかよし」では、木の実や落ち葉を使って、「ふゆとなかよし」では、風を利用して遊んでみる活動を通して、「作る」「試す」「工夫する」力を育んでいく。2年「せかいでひとつたしのおもちゃ」では、身近にある物を使った創作活動を通して「ものづくり」の基本的な技能を養う。	見る、触る、嗅ぐなどの具体的な活動を通して観察し、表現する力を身に付けさせる。その際、「○○みたいな形です。」「触ると○○しています。」「○○と同じくらいの大きさです。」などの話形を示し、具体的な文章で表現させる。また、言葉、絵、動作、劇化、タブレットで写真を撮り共有するなどの多様な方法によって他者と伝え合ったり振り返ったりさせる。	身近な人々、物、社会、自然に関わる活動を通して、そのよさや楽しさを味わわせ、進んで触れ合い、交流しようという態度を育む。 「自分で育てたアサガオ」「自分で育てたミニトマト」「自分で作ったおもちゃ」など、自分が主体的となり取り組む活動を数多く体験させる。自分の思いや願いが実現したという体験を数多く積ませることで、自信や次への意欲につなげていく。 1年「そらまめのさやむき」体験、2年「とうもろこしの皮むき」体験など、児童にとって価値ある体験を数多く味わわせる。 1年「かぜであそぼう」では、凧作りの専門家（六郷とんび凧の会）を「むかしからのあそびをたのしもう」では、地域のお年寄りを外部人材として適宜導入し、範となる大人への憧れと感動を与える。